



Indoor Air 2022 (online) に参加して
<https://indoorair2022.org/>

予防医学センター
中岡宏子

Indoor Air 2022・第17回 ISIAQ (International Society of Indoor Air Quality & Climate) 国際学会はフィンランド東部の Kuopio で6月12日から16日に対面とオンライン形式の両方で開催されました。今回の学会のテーマは「Healthy people in healthy indoor environments」で、昨年の Healthy Buildings (HB) 学会では新型コロナウイルス感染に関する理論や対策、換気についての話題が多かったことに比べるとヒトの健康と室内環境の関係についての議論が多い印象の学会でした。

特に冒頭の基調講演でヘルシンキ大学の Pekkanen 氏がフィンランドでは空気質が改善



されているにもかかわらず、建物関連の症状を訴える人が多いということから Finnish Indoor Air and Health Programme 2018-2028 というプログラムが実施されているという話題提供があり、その後、このプログラムに関するワークショップも行われました。日本においても室内空気中の化学物質濃度が低減されてもなお症状を訴える人は絶えず、市民が化学物質濃度だけで

なく正しい情報や知識を持つことの重要性が認識できました。また、米国のテキサス大学のチームからは「environmental justice and health equity」というコンセプトと学際的な研究プログラムが紹介されました。社会から取り残されたコミュニティでは大気や室内空気(家庭、学校、職場)が健康を促進するものではない可能性があり、その調査と対策を考えていくというプログラムで、そのコンセプトが我々の目指すゼロ次予防の概念につながるため大変興味深いものでした。また、調査に関するモニタリング機器や携帯電話のアプリの使用

などの新しいデバイスについても参考になるものが多くありました。上記の他にも建物関連症状の発症機序に関する考察や温熱環境、換気、化学や測定技術、ガイドライン、教育に関することなど多くの発表があり、大変充実した学会でした。

今学会はハイブリッド形式で行われ、様々な状況を鑑みて私たちは現地参加ではなく、オンラインによる参加を選択しましたが、会期終了後もオンデマンドで発表を見ることができ、時差の関係で見逃したセッションなどにも後から参加できて大変便利でした。ただ、オープニングセレモニーでKuopio郡から現地での参加者はぜひ湖でクルージングを楽しんでください、という発言があったように、森と湖が大部分を占める北欧の街はとても魅力的で、美しい環境を楽しんだであろう現地参加者がとてもうらやましく思えた学会でもありました。

